

鳥島におけるアホウドリ保護増殖事業について

1. 背景

鳥島におけるアホウドリの保護増殖事業については、前回(平成22年9月)の分科会で、以下の方針について了承いただいた。

燕崎及び初寝崎でのモニタリングにより、昨年度も順調な繁殖が確認されているため、今年度も2～3月期に1回のモニタリングを行う。

なお、初寝崎の雛へは引き続き4月～5月に足環を装着する(長谷川教授)。

鳥島では極力人為を排除して観察を続ける方針とするが、特に燕崎繁殖地の土砂流入の状況と繁殖への影響等について注意深くモニタリングを行う。燕崎繁殖地において新たに掘削した中央導水溝は、いずれ土砂で埋まってしまうと予測されることから、当面、燕崎繁殖地への土砂の流入量を減らすため、崖下直下において土砂流路を変更する工事を検討し、実施する。

2. 実施結果

(1) モニタリング事業の実施結果

実施期間：平成23年2月4日～3月4日(29日間)

実施結果概要：

- 確認ヒナ数は、燕崎で271羽、初寝崎で56羽、子持山南斜面で1羽、合計328羽となり、前年と同数であった(図1)。このうち燕崎のヒナ15羽を2月8日に小笠原鷺島へ移送した。初寝崎では11羽増加したが、燕崎及び子持山南斜面では減少した。

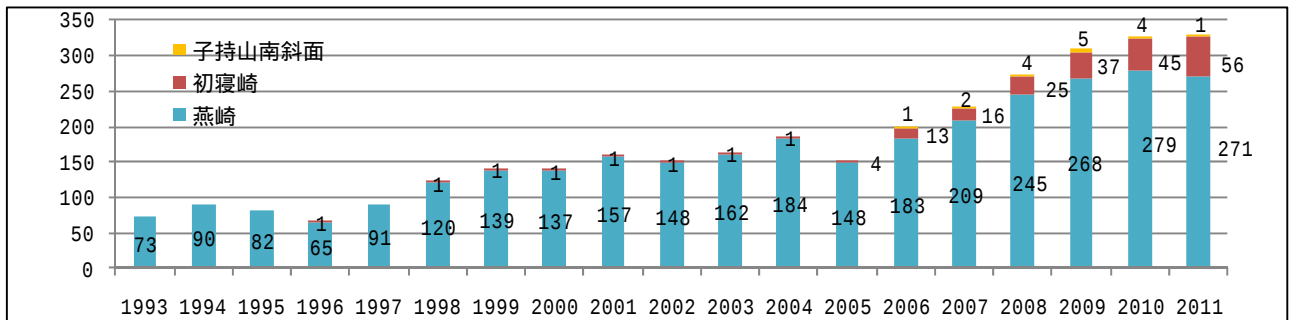


図1 鳥島における2-3月期の確認ヒナ数の推移

- 初寝崎での毎正時(X時00分。7:00～17:00)の平均着地個体数は104.1羽であった。2000年以降着実な増加が見られる(図2)。

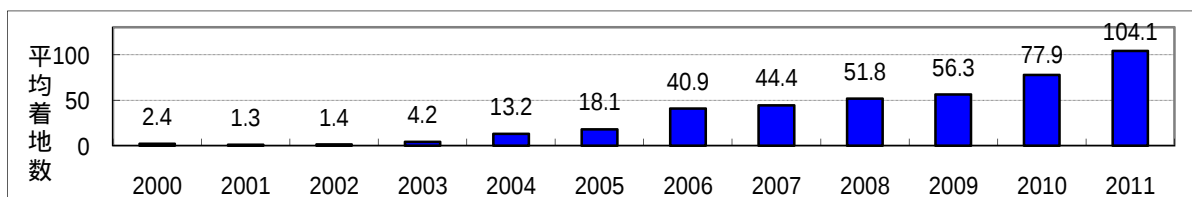


図2 初寝崎における2-3月の毎正時の平均着地個体数経年変化

- ・ 初寝崎で繁殖した56つがいを含めて132ヶ所で特定のつがいの定着又は定着の可能性が認められた(前年96ヶ所、前々年79ヶ所)。このうち47ヶ所は新規であった。来期の繁殖巣の更なる増加が期待される。
- ・ 初寝崎の繁殖地では、アホウドリの繁殖障害となるような問題は確認されなかった(写真1・2)



写真1: 初寝崎繁殖地全景(2011年2月5日)



写真2: 初寝崎繁殖状況(2011年2月14日)

(2) 燕崎繁殖環境の維持改善事業の実施結果

経緯

- ・ 燕崎では、繁殖地中央導水溝に堆積した土砂が2010年2月に西コロニーへ流れ込み、ヒナ10羽(推定)が生き埋めとなった。うち2羽を救出し、2羽の死体を回収した。更なる流入を防止するため、調査員が緊急工事を実施し、約100立米の土砂を掘削。
- ・ ヒナの被害発生を受け、分科会委員に諮り、繁殖期終了後の2010年5月及び6月に繁殖地中央導水溝(幅5m×長さ80m×最大深2m)を掘削した(写真3)。
- ・ 2011年5月時点では、掘削後に流入した土砂の多くは下流部に流れ下り、繁殖地への流入は抑えられ機能しているが、既に導水溝の下流部には土砂が堆積している(写真4)。



写真3: 掘削した中央導水溝 (2010年6月)



写真4: 中央導水溝下部 (2011年5月)

崖下直下における流路変更工事の実施

平成23年5月10日～5月16日(6人×4日+10人×1日、延べ33人日)

- ・ 繁殖地へ流入する土砂は、崖上の山腹を供給源として崖下に流れ落ち、崖下直下では、繁殖地への流れと繁殖地に影響のない東側ルートへと尾根を境に分かれている。昨年度に掘削した中央導水溝もいずれは土砂で埋め尽くされると予想されることから、東側ルートへ土砂の流れを誘導し、繁殖地への流量を減少させるもの。
- ・ 工事は、(財)山階鳥類研究所に委託し、巣立ちヒナへの発信機装着等調査の際に、作業員6名が同行し、調査員とともに、スコップ、ツルハシ等の手作業で尾根を掘削し、砂の斜面には盛り土と土のう(約700袋)を設置。全体で長さ約55m×幅2～4m×深さ約1.5m～1mの導水溝が完成。(写真5, 6, 7)



写真5: 工事実施箇所全景 (2011年5月実施後)



写真6 東側ルートへ繋げる尾根掘削箇所



写真7 上部斜面の盛り土と土のう設置

3. 今年度事業の実施計画(案)

今年度も2～3月期に1回のモニタリングを行うこととする。なお、初寝崎での繁殖数がきわめて順調に増加していることから、次年度以降のモニタリング内容は簡略化する。

モニタリング実施時に、繁殖環境の維持・改善事業実施場所において土砂堆積等が確認された場合には、軽易な補修工事を行う。なお、軽易な補修工事では対応できない場合、その他繁殖障害となるような環境変化が生じた場合には、分科会委員に諮り対応の必要性等を検討する。